

熊大通信

熊大通信

熊大通信

熊大通信

熊大通信

熊大通信

熊大通信

熊本大学広報誌

# 熊大通信

vol.

# 50

2013 AUTUMN



特別企画

## あの時、現在、そして未来へー 追跡!バックナンバー



国立大学法人  
熊本大学

Kumamoto University



## CAMPUS SCENES キャンパスの風景

### オープンキャンパス

8月7日に本荘・九品寺キャンパスで、  
8月10日には黒髪・大江キャンパスで、  
今年も本学のオープンキャンパスが開催された。  
学部説明会や模擬授業、学生らが講師役を  
務める実験などに大勢の高校生たちが参加し、  
盛夏のキャンパスは終日にぎわった。  
写真は、本荘・九品寺キャンパスの医学教育図書棟前。



# 熊大通信 vol. 50

2013 AUTUMN

## 熊本大学広報誌 熊大通信

\*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

|      |   |
|------|---|
| 【発行】 | 国立大学法人熊本大学<br>〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1<br>Tel.096-342-3119<br>Fax.096-342-3007<br>sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp   |
| 【編集】 | 熊大通信編集委員会<br>田中 智之／委員長・大学院自然科学研究科<br>中川 順子／文学部<br>黨 武彦／教育学部<br>大脇 成昭／法学部<br>中田 晴彦／大学院自然科学研究科<br>永田 千鶴／大学院生命科学研究部<br>首藤 剛／大学院生命科学研究部<br>田中 尚人／政策創造研究教育センター<br>西川 洋子／マーケティング推進部広報戦略ユニット |
| 【制作】 | 株式会社カラスプランニング   |

## CONTENTS

|    |                |  |
|----|----------------|--|
| 03 | 特別企画           | あの時、現在、そして未来へー<br>追跡!バックナンバー                                 |
| 13 | 研究室探訪          | 研究マインドを忘れない<br>医療人たれ!<br>大学院生命科学研究部 竹屋元裕研究室                  |
| 15 | 国際交流           | インタビュー<br>熊本大学から世界へ 岩淵 泰さん<br>世界から熊本大学へ マヌエル・エンリケ・セルドン・ラミスさん |
| 17 | 卒業先生ジャーナル      |  |
| 19 | KUMADAI TOPICS |  |
| 22 | 熊本大学基金よりお知らせ   |  |

表紙／「熊大通信」創刊号から49号までの表紙

# 現在、 あの時、



熊大通信 46

## 特別企画

肥後細川家に  
伝わる  
貴重な史料を  
読み解く

対談 法人系古文書20年記  
熊本大学附属図書館 肥後細川家史料文庫

「肥後細川家史料文庫」は、肥後細川家の史料を収集・整理し、公開している。この史料文庫は、肥後細川家の歴史を伝える貴重な史料であり、肥後細川家の研究に大きく貢献している。また、肥後細川家の史料を公開することで、肥後細川家の歴史を広く知ってもらうこともできる。肥後細川家の史料文庫は、肥後細川家の歴史を伝える貴重な史料であり、肥後細川家の研究に大きく貢献している。また、肥後細川家の史料を公開することで、肥後細川家の歴史を広く知ってもらうこともできる。



### 研究室探訪

研究室探訪

熊本の歴史を学ぶ

熊本の歴史を学ぶ

熊本大学の「今」を伝える広報誌「熊大通信」。

2001年5月の創刊以来、本学の教育研究活動等に関する情報を

社会に対して積極的に公表する役割を担ってまいりました。

発行50号を迎えた今号では、かつてご登場いただいた

先生あるいは学生の当時の活躍を振り返りつつ

彼らの「<sup>いま</sup>現在」の姿を追います。

そこから見えてくるものの中に

今後、「熊大通信」が何を伝えていくべきか

その答えも浮かび上がってくることでしょう。

## 有明海 を考える

～熊本大学からのアプローチ～



熊本で現代日本を体感す



近未来の熊本を 電子技術で描き

# そして未来へ

## 追跡！バックナンバー

### 「熊大通信」50号発刊に寄せて

「熊大通信」編集委員長／大学院自然科学研究科准教授／学長特別補佐 田中 智之



いものにするにはどうしたらよいかについて編集委員と議論を重ね、近刊では新たな姿勢を持って編集に取り組んでいます。それは、さらに手に取りやすく、さらに人を前面に、さらに読み

「熊大通信」は21世紀の幕開けと同時に創刊され、以来教育、研究、地域貢献・国際貢献の3つの柱を中心に、さまざまな本学の「今」を伝え続け、今回50号を刊行することができました。

創刊当時の文書、創刊にあたっての基本方針には発刊の目的と効果について、「大学の教育研究活動等の現状と、目指している将来像を魅力あるものとして学外へ分かりやすく、また、積極的に発信していく」ために、「誰もが手軽にじっくり手にすることができ、広報誌の発行が不可欠」とうたわれています。

その精神は継承できているか、さらに良

ものとしての充実を。

過去と現在をオーバーラップさせることにより、人や時代を浮かび上げらせようとする今号の取り組みもその一環です。

できるだけ親しみやすく、ユニークな切り口で、熊大の「今」そして「これから」を伝え続けていきます。

バックナンバーはWEBサイトで!



Q 熊大通信

検索

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daiyakujouhou/kouhou/kouhoushi/kumatu>



## 昔も今も現場主義 社会問題を論じるなら生活を見る！

文学部総合人間学地域科学コース教授 徳野貞雄

「家族」と「世帯」は違うんやー！」

「日本は人口が減少して大変や言うけど、ほんまか？ 高齢社会、何が悪い？ 昔はようけ子ども産んで、たくさん死によった。今は生まれた子のほとんどが無事育ち、老人は長生きできる。どや、ええ社会やろう？」

くしゃくしゃの髪、ラフな出で立ち、熱い関西弁。徳野貞雄先生は、10年前に「熊大通信」に登場した時と変わらぬバイタリティに溢れています。地域社会学者として、全国さらには世界の農村・漁村を飛び回り、食や過疎、少子高齢化など家族と社会の問題を研究し続けてきた先生に、昔と今、何が変化したのか尋ねてみました。

「現代は、家族が解体した言うけど、家族がなくなつたわけやない。社会構造が変化しただけや。それを考慮せんと、数十年前の社会構造を念頭に置いたままでデータを分析したり議論したりするからうまくいかんのや」。先生が「家族は何



「そこに住む人たちが自身が集落の良さを認識し、暮らしの基盤をしっかりと見つめ直すことが何より大事」と語る徳野先生

人？」と質問すると、ほとんどの人が同居している親族のみを数えるそうです。「違う！ それは、世帯！ みな、家族」と「世帯」の違いが分かっというんのや」。

私たちの多くは同居している人のみを「家族」と捉えがちです。しかし、自家用車が普及し、通信網が発達した現代においては、離れて暮らしている子どもなどの



簡単な集落の地図を書き、現在の世帯員を黒、他出している家族を赤で、他出先や年齢なども含め詳細に記入していく「T型集落点検」

世帯も含めて、家族と捉えるべきと先生は言います。

独自の手法で地域社会を読み解く

そこで先生が考案したのが「T型集落点検」という集落の調査・分析法です。「T型」の「T」は、夫・妻・子を家系図に描いた時の形と、「徳野」の頭文字を合わせたもの。この手法では他出した世帯も、家族としてカウントするので、高齢者ばかりに見えた集落も、若い世代や子どももいる、活力のある集落になるのです。

少子高齢化が進み人口は減少、担い手不足で農林漁業は衰退、雇用の場がなく、交通は不便。だから田舎は疲弊している、

住みにくい……。世間に流布するそんなイメージを、先生はことごとく喝破します。

「子どもの数をみてみ。合計特殊出生率が2を超えとるんは全部田舎や。そこに行つて『なんでたくさん子ども産むん?』って聞くと、『育てるのが楽だから』と答える。田舎は子どもを育てやすい、いい社会なんや」。

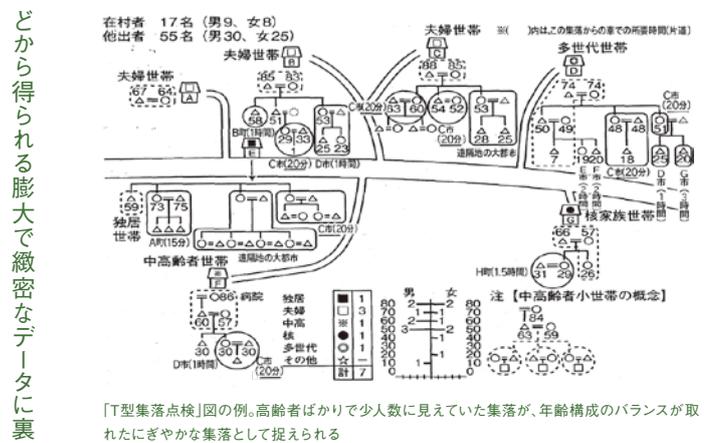
「田舎は公共交通機関が無いから不便や言うけど、皆自家用車を持つとる。公共交通機関はとくに自家用車になつてるんよ」。

暮らしの根本は今も昔も変わらない

次々に私たちの常識を打ち破る徳野先生。しかもそれは、「T型集落点検」な

## 第7号に登場!

2003年1月号の「熊大群像」に登場した徳野先生。全国の農村を駆け回り、独特な地域社会づくり論を熱く語るパワフルな姿が紹介されていました。



「T型集落点検」図の例。高齢者ばかりで少人数に見えていた集落が、年齢構成のバランスが取れたにぎやかな集落として捉えられる

どこから得られる膨大で緻密なデータに裏付けされており、何より、常に現場に赴き、人々の生の生活に触れた実感から得られたものであるため、説得力を持つのです。

先生には全国の自治体等から次々と相談が持ち込まれます。先日は、東日本大震災で被災した宮城県石巻市の相川集落を訪れました。元々過疎と高齢化が進んでいた相川集落は、震災の影響でそれが一挙に

加速。数年後にはいわゆる「限界集落」になることが見込まれています。不安がる住民たちに先生は、「T型集落点検」の手法を用いて、地域の明るい将来像を描いて見せました。この様子は、8月25日にNHK総合テレビで全国放送されました。

社会と生活集団、そして個人の関係を研究してきた先生。「社会構造が変われば家族を含む生活構造も変わる。それでも、家族という人間関係の中に個人の生活の大部分があることは同じや。今は、家族とか自分の暮らしとか、当たり前のことが分からなくなつてる。社会は生活の中から見る、これが大事や」。今日も先生は、現場から社会を見つめています。



### PROFILE

徳野 貞雄 教授  
Sadao Tokuno

九州大学大学院文学研究科博士課程修了。山口大学人文学部助手、広島県立大学経営学部助教授などを経て、熊本大学文学部地域科学科社会学助教授に。その間、イギリス・シェフィールド大学客員研究員。1997年より現職。全国合鴨水稲会世話人、「道の駅」命名者など多彩な顔を持つ。

あの日の研究成果は、今、そしてこれからも私たちの暮らしに生かされる

# 高まる防災意識に応え 研究成果を社会に提供し続ける

大学院自然科学研究科環境共生工学専攻教授 松田 泰治

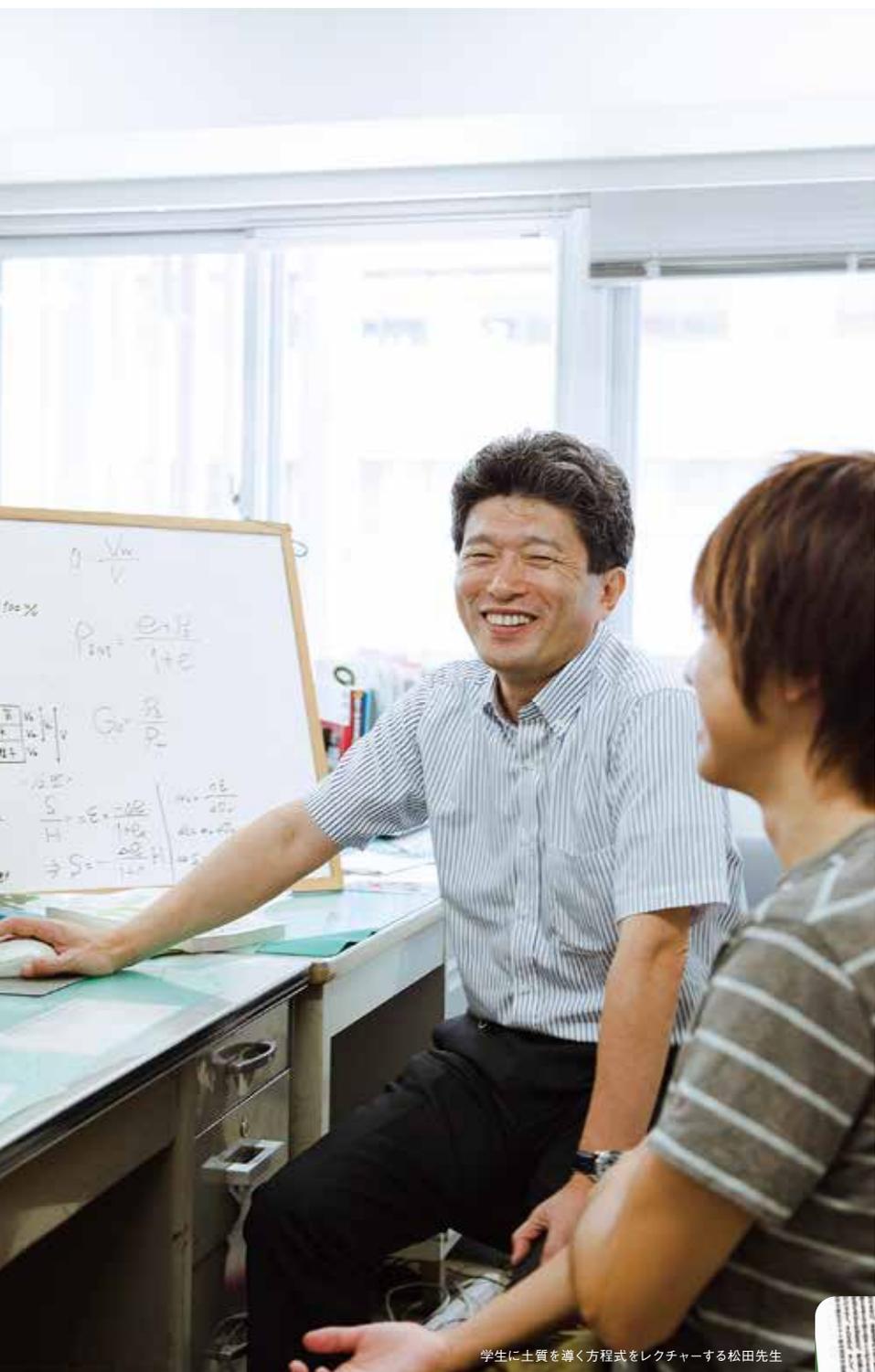
研究成果を行政へバトンタッチ

「熊大通信」に登場した9年前、橋梁の

補強に関する研究を進めていた松田泰治先生。戦後の高度成長期に大量に建設された社会インフラの老朽化の問題に世間

の関心が集まり始めた時期でした。

先生はその後、熊本県が設置した「橋梁の長寿命化修繕計画策定検討委員会」の委員として、橋梁の維持管理における方向性や計画の策定方針についての検討に加わり、その成果は15メートル以上の橋梁に



学生に土質を導く方程式をレクチャーする松田先生



## 第13号に登場!

2004年7月号の地域防災に関する特集の中で松田先生は、これからの防災は行政に頼るだけでなく住民も一体となって取り組むことが大切と述べていました。

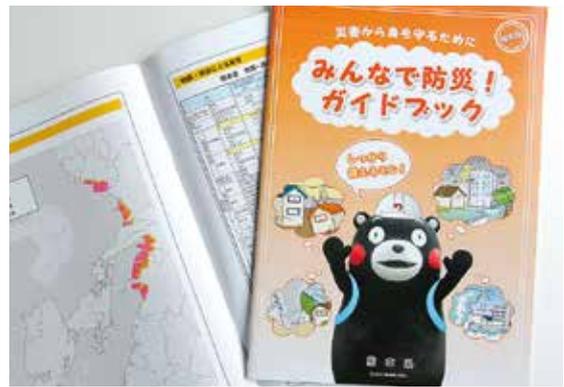
ついでに2011年度、15メートル未満のものについては2012年度に、「熊本県橋梁長寿命化修繕計画」としてまとめられるに至りました。

「小さなものを含めると県内には約3千400の橋梁があります(熊本市管理分を除く)。5年ほどかけてそれら全てのデータを洗い出し、修繕計画の方針を決めていきました。今はその方針に基づき、自治体が実際に補修計画を立て、実行に移す段階です。崩壊してから場当たりに建て直すより、あらかじめ状態を調べ、必要な補修を加えて長く使う方が、安全性はもちろん費用の面からもずっと効率が良いですよ」と先生は語ります。研究者

から行政へとうまくボタンタッチがなされ  
たといえそうです。

### 完成したシミュレーションソフト

9年前の記事の中では、先生がセル  
オートマトンという計算モデルを使って災  
害時の群衆の避難行動をシミュレーショ  
ンする研究を行っていることにも触れられ  
ていました。従来、避難に要する時間は避  
難する動線距離の長短により単純に計ら  
れていましたが、この解析法を使うと出口  
の大きさ、人の混み具合などさまざまな  
条件により避難にどれくらい時間がか  
かるかをより現実によくシミュレーション



松田先生関わった県の地域防災計画の見直しの中で作成されたガイドブック。東日本大震災を受け、地震・津波の被害想定も掲載

することができるといふものでした。

「この研究は集客施設を対象としたも  
ので、施設のデータを入力すればシミュ  
レーションできるソフトは既に出上がって  
います。今は、実際にソフトを使う建物  
の安全管理者が、どのようにして施設の  
設計や避難誘導に反映させたらよいか、  
その方法を模索中といったところですね」。

研究成果をさまざまな場面で社会に  
役立ててきた松田先生。今年3月、本学  
の教員が中心となって県の地域防災計画  
の見直し案を策定し、知事へ答申を行っ  
た際も、メンバーとして関わっていました。  
策定に当たっては数値データを提供する



先生が開発した避難シミュレーション  
ソフト。赤い点の一つ一つが群衆を示  
しており、災害が発生するとのように  
施設から脱出していくかを時間経過と  
ともに表すことができる

だけでなく、住民にどう説明すれば理解  
されやすいかなどについても委員で議論し  
合い、県にアドバイスをしたそうです。

### 地震工学の立場で地域に貢献し続ける

一般土木建造物の耐震を専門とする先  
生にとつて、近年、研究を取り巻く環境は  
大きく変化しました。「以前の耐震設計は、  
地震の揺れに相当する荷重を構造物にか  
け、壊れるかどうかを診断するという単純  
なものでした。コンピュータの進歩により  
シミュレーションの技術は格段に発展しま  
した。今では構造物が建つ地盤がどのよう  
に動くかといったデータなど

も入れ込めるので、より現  
象に忠実な評価ができる時  
代になったといえます」。

耐震設計の技術は阪神・  
淡路大震災以降進歩しま  
した。東日本大震災におい  
ても最近の基準で建てられ  
た構造物については、地震に  
よる被害は少なかったこと  
がそれを実証しています。  
しかし、この震災によって私  
たちは、揺れを乗り切っても  
続いて起こる津波によって  
甚大な被害がもたらされる

ことを改めて認識させられました。松田  
先生も「これからは東日本大震災の教訓  
を生かしつつ、来るべき次の大地震に備え  
ることになる」と言います。

先生はまた、人々の意識が変化している  
ことも感じています。防災研修に向向くこ  
とも多いため、震災以降、例えば、学校長  
の集まりなど、これまで呼ばれたことのな  
い団体から講師を依頼されることがある  
そうです。熊本はもともと水害をはじめと  
した災害の多い地域。震災もいつ起こるか  
分かりません。人々の災害に対する関心の  
高まりを歓迎しつつ、松田先生は地震工学  
研究者の立場から、地域の防災に惜しま  
ない協力を続けています。



### PROFILE

松田 泰治 教授  
Taiji Mazda

九州大学大学院工学研究科修士課程修了。(財)電力  
中央研究所研究員、九州大学工学部助教授(その間、  
米・スタンフォード大学客員研究員)を経て、2004年  
より現職。地震工学や都市防災、リスクマネジメント  
の専門家として、多くの委員会等の委員も務める。

# 一人一人の健康は健康な地域づくりから 人々と共につくり上げることが喜び

NPO法人東アジアヘルスプロモーションネットワークセンター理事長／熊本大学名誉教授 上田厚

NPOの立場で地域の健康づくり

2009年3月に本学医学薬学研究

部の教授職を勇退した上田厚先生は、本学の名誉教授として、また「NPO法人東アジアヘルスプロモーションネットワーク

センター（以下、東アジアHPネット）」理事長として、少子・高齢社会に対応した持続可能な健康社会の創造に向け、現在

も精力的に活動を続けています。

本学在職中、先生は予防医学、中でも職業に関連した健康の低下を予防する研究を行っていました。特に、農作業に起因するアレルギーや呼吸器障がいが必要な課題として取り組んでいた先生は、病気そのものの原因・治療・予防を探るだけでは、人が真に健康な生活を送るのに十分ではないと感じるようになったそうです。

「地域の環境や農作業の在り方の中に、人々が健康を害する本当の要因がある、と思うようになったのです。地域の環境を健康により良い状態に改善していくことが、もっと大事なのではないかと思ひ至りました」。



上田先生が関わった「健康日本21」の甲佐町モデルづくりは、2005年、「健康増進計画」と「地域福祉計画」としてまとまった。策定は町民と協働して行われた

## 第11号に登場!

2004年1月、高齢社会を支える地域づくりを進める本学の取り組みを紹介する特集の中で、上田先生はQOLの実現のためには医療のみならず、地域生活のあらゆるものが関係してくると語りました。



「熊大通信」第11号で紹介されています。その様子は「熊大通信」第11号で紹介されています。

「熊大通信」第11号で紹介されています。その様子は「熊大通信」第11号で紹介されています。



7つの生活習慣の実践の有無がその後の寿命に影響するとされる「プレスローの7つの健康習慣」と共に

### ヘルスプロモーションの技術を用いて

そのような中、先生が着目したのが「ヘルスプロモーション」という手法です。ヘルスプロモーションとはWHO(世界保健機関)が1986年のオタワ憲章において提唱した新しい健康観に基づく21世紀の健康戦略で、「個人とコミュニティが健康の決定要因をコントロールできるようにすることにより、健康を改善することが可能になるプロセス」と定義されています。

「ヘルスプロモーションでは、一人一人が健康になるための知識や技術を持ち、自身で健康になる力を付けていくことが求められます。そのためには、人々が主体的に健康づくりに参加できるように地域的環境づくりが必要です」。

つまり、地域ぐるみの活動の環境づくりが必要なんです。つまり、地域ぐるみの活動の環境づくりが必要なんです。

「東アジアHPネット」の活動は、まず、地域における健康推進のキーパーソンとなる「ヘルスプロモーションボランティア」を養成することから始まります。そして、健康になるための知識や技術を身に付けた彼らがグループワークを行い、地域の人々へそれを広めていくというわけです。



韓国・ピョンテック大学で開催された「第10回東アジアヘルスプロモーション会議」。日本や韓国、中国、台湾、タイから200名超が参加しシンポジウム形式で意見を交わした

「これが「東アジアHPネット」設立へとつながっていくことになりました。活躍の場は世界へと広がる

とって大きな喜びです」。

「東アジアHPネット」は、本学生命科学研究部環境保健医学分野を中心に各部署と連携しながら、毎年1回、研究者と行政、住民、企業が一堂に会する会議を開いてきました。これまで日本や中国、台湾、台湾、そして10回目となった昨年は韓国で開催。今年11月には中国・南寧市で、来年度はタイ・バンコック市で開催予定です。「もう、東アジアではなく、『アジアHPネット』に変えようと考えているんですよ」とこやかに話す上田先生。あらゆる世代の誰もが健康に生活できるまちづくりを進める上田先生の取り組みは、これからも世界に広がっていくことでしょう。



### PROFILE

上田 厚 名誉教授  
Atsushi Ueda

元医学薬学研究部環境保健医学分野教授。2009年退職。2010年、NPO法人東アジアヘルスプロモーションネットワークセンターを設立。理事長としてセンターを運営するほか、各種講演会などで忙しい日々を送っている。熊本大学名誉教授。(株)くまもと健康支援研究所顧問。



## 子どもたちに伝えたいことは同じだから 人の温もりが伝わる人形劇を続けていく

熊本大学人形劇サークル「青い鳥」

アナログだからこそその良さがある

「はるかちゃんを返せ！」

「そこ！せりふ、タイミング考えて！」

「あつ、きゃあー！」

「今のヒロインの動き、いいね！かわいいよ〜」

夏休みの学生会館の中に、せみ時雨に負けない大きな声が響きます。8月下旬の1週間にわたる天草・牛深巡回公演、そして11月の熊本人形劇フェスティバルなどに向け、人形劇サークル「青い鳥」はオリジナル劇の練習に余念がありません。

「青い鳥」が最初に「熊大通信」に登場したのは創刊間もない第3号、2001年のことでした。数ある部会やサークル、愛好会・同好会の中でも長い歴史を持つこのサークルは、当時すでに結成37年目。来年にはいよいよ結成50年を迎えます。現在は1〜3年生が24人、院生まで含めると約30人のメンバーがあり、49代目会長となる高本晃希さん（教育学部3年）が皆を

束ねています。

「毎年メインの新作2本を決め、小品を組み合わせると…というスタイルは以前と変わりません。作品が全て部員のオリジナルというのも同じですね」と高本さん。メンバー手作りの温かみのある人形や小道具、全身を使った人形遣い、夢いっぱいストーリー展開。「青い鳥」の人形劇は、遠い子どもたちに見たような、懐かしさを感じさせます。

高本さんは続けます。「今の子どもたちは物心ついたときからゲームやパソコンなどデジタルの世界に囲まれています。でも、僕たちの人形劇を、とても楽しそうに見てくれます。アナログにはアナログの良さ



第49代会長、高本晃希さん。公演では照明を担当



『夜の学校そうじ』の練習。うだるような暑さの中、体中を使う演技に全員汗びしょり

があつて、目の前で演じるからこそ感情が伝わり、共感が得られるのではないでしょう。昔も今も、子どもたちの根本的なところは変わっていないと思いますよ。」

子どもたちの笑顔が見たいから

今年の新作のメインとなるのは、「ありがとつ」や「こめんなさい」を素直に伝える大切さをテーマにした『魔法のことは』と、物を大事にすることを教える『夜の学校そうじ』の2本。時代が移り変わっても、子どもたちに伝えたいことは変わりません。「青い鳥」は、そのことを大切に受け継いできました。

練習は基本的に、月・木・土曜日の週3回、3時間ずつ行います。本番ではたとえ土足禁止の場所でもなくても靴を履きません。本当に人形が生きて動いている！と



『魔法のことは』演出担当の吉田さん(左)と、『夜の学校そうじ』演出担当の原口友佳さん(教育学部3年)

子どもたちが思えるよう、足音を立てず、極力ひとの気配を消すためです。だから練習の時も、皆、はだしです。

「練習はきついです！」とは、演出担当の一人である吉田香菜さん(文学部3年)。

人形や小道具を担当する仲間、誰より大きな声で指示を出す元気な吉田さんでも、上体を深く傾け、腕を上げて人形を支える姿勢の辛さは身にしみているそうです。

「でも、子どもたちが楽しんでくれるから耐えられます。子どもたちと一緒に公演を作り上げていくという感覚は、とてもいいものですよ。」

## 第3号に登場!

2001年11月に登場。この年の夏の巡回公演も、やはり天草でした。



7月14日、熊本市で行われた「九州人形劇フェスティバル」に出演。子どもたちの笑顔がメンバーの元気の素

子どもたちからもらったメッセージカードは大切にしているという「青い鳥」のメンバーたち。「子どもたちに夢を届けたい」という思いは、これからも受け継がれていくことでしょう。

## 特別企画から見えてくるもの

「熊大通信」編集委員長 田中智之

本誌ではたくさんの方を紹介していますが、仮に各号20名を取り上げると、50号では計1000名が登場したことになります。そのなかで今号では3名の教員と1つの学生団体に注目し、現在の姿を追いました。

その後の研究や取り組みが展開し、地域や社会に大きく貢献する姿を通して、共通して浮かび上がってくるのは、新しい社会や時代の変化。防災に対する人々の意識や、新しい健康観に基づく地域の環境が変わりつつあります。またその一方で、変わらないものも見えてきました。人々の暮らしの根本や、子どもたちの感性は昔も今も不変であることにホッとします。「変わっていくもの」と「変わらないもの」——その両方と向き合いながら、教育と研究そして地域・国際貢献を行っていく熊本大学の姿に、これからも注目ください。



- 10月27日(日) 南部公民館公演 所/南部公民館(熊本市南区)
  - 11月17日(日) 熊本人形劇フェスティバル 所/桜ヶ丘児童館(熊本市北区)
  - 12月15日(日) 定期公演 所/清水公民館(熊本市北区)
- 問/080-1543-6097:石坂

# 研究室探訪

Laboratory Exploration

竹屋元裕研究室

大学院生命科学研究所

細胞病理学分野

**が**んや心筋梗塞、ウイルス感染などが、どうして起こるのか？  
どんな病態を示すのか？病気の原因・成り立ちを解明することにより、その治療と予防に貢献するのが病理学です。竹屋元裕研究室では、生体に侵入した異物や死細胞を食べて処理するマクロファージという細胞の研究を主に行っています。マクロファージは異物を取り込むだけでなく、種々の生理活性物質を分泌することによって、免疫を活性化し、がんや心筋梗塞などの病気と闘う機能を持つといわれています。

しかし、マクロファージの中には、「腫瘍関連マクロファージ(TAM)」などのように、最初のがん細胞を攻撃するために組織に入ってきて、結果的にはがんの増殖を助けたり、動脈の壁に脂肪を沈着させ、動脈硬化を促したりするものもあり、その働きは多様で複雑なものです。

「本学医学部は、炎症や免疫機能に関する研究に長い歴史があり、高い評価を得ています。遺伝子改変マウスや、臨床の組織標本を用いて、さまざまな機能を解明していきたい」と竹屋教授。

**竹**屋研究室のモットーは、“研究室の融和”。毎週金曜朝9時から行われる「研究報告会」では、教員、大学院生、技師たちが、それぞれの立場で活発な意見交換を重ねています。「学生たちはそれぞれ違ったテーマで研究をしていますが、お互いの研究に興味を持ち、進んでアドバイスや手助けをする雰囲気が出来上がっています。それが個人の進歩につながり、ひいては研究室全体が発展していくことになるのです」。学生たちに竹屋教授が望むのは、「研究マインドを忘れない医療人たれ！」ということ。「なぜ」という気持ちが大事。病理学に携わったからには、対症療法ではなく、病気の本質を見極めて治療に取り組む医療人になってほしい」と語ります。

## lab's data

[竹屋研究室データ]

### □ 研究テーマ

- I. ヒト悪性腫瘍(がん)におけるマクロファージの分化・活性化に関する研究
- II. マクロファージを制御する化合物の探索とがん治療への応用
- III. マウス各種病態モデルにおけるマクロファージの分化・活性化に関する研究
- IV. 生検・外科切除標本、病理解剖症例を用いた外科病理学的症例解析

### □ メンバー

竹屋元裕教授、菟原義弘講師、藤原章雄助教、大西結二助教、学術研究員1人、大学院生6人、技術専門職員1人、検査技師3人、秘書1人

### □ OB・OGの進路

国立大学医学部教員、国公立病院病理医、医学部附属病院臨床系医師、国公立病院医師など



Interview:

## マクロファージの働きを解明し効果的ながん治療につなげたい

大学院医学教育部

博士課程医学専攻2年 西東 洋一さん

マクロファージには腫瘍(がん)に対抗する働きをするものと、腫瘍の成長を手助けするものがあるのですが、私は、リンパ節の中にいる、腫瘍に対抗する側のマクロファージを主に研究しています。マクロファージの仕組みを明らかにできれば、腫瘍の周囲にいる正常な細胞たちをがん治療に参加させることができ、腫瘍を直接たたく治療法と連携させることによって、より効果的ながん治療へとつながるのです。

竹屋研究室の良いところは、研究の出発点を定めた後は、自分が「やりたい!」と思った方向へ進めさせてくれるところです。自ら方法を提案し、決定していくため、大変勉強になります。今は研究が楽しいので、できるだけ長く続けたいと思っていますが、将来臨床に携わることになった時も、病の本質を探求した知識と経験は大いに役立つと思っています。



9:00



毎週金曜に開催される「研究報告会(医局会)」。研究報告や学会発表の予行など、2時間ほど議論が続くことも。

## 密着! 竹屋研究室

「病の本質を知りたい!」という探究心に溢れ、研究のみならず臨床の病理診断も行う竹屋研究室におじゃましました。

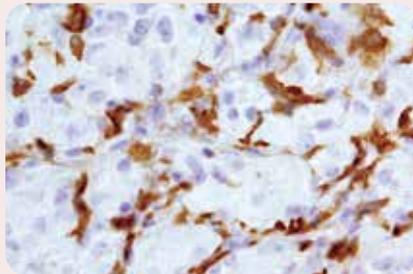


## 研究マインドを忘れない 医療人たれ!

🕒 14:00



37度で細胞を培養。細菌が入ると細胞が死んでしまうため、クリーンベンチで慎重に取り扱う。



腎がんの免疫染色写真。がん細胞の間に多数のマクロファージ(茶色)が存在し、がん細胞の増殖を助けている。

🕒 10:30



マウスやヒトの組織をパラフィンで固め「パラフィンブロック」を作る。これを薄くスライス・染色し、顕微鏡で診断。

# 日本と海外をつなぐという夢を実現し 留学生も交えたまちづくりに邁進中

岡山大学地域総合研究センター(AGORA) 助教  
岩淵 泰さん

フランス留学を目前に控えた2006年、  
「将来は日本とフランスをつなぐ人間になりたい」と語っていた岩淵さん。  
今、日本と海外を結ぶ架け橋となりながら、  
地域づくりに奮闘中です。



コスタリカ

ページでも、その後を追いました。

交 流

2006年7月  
21号に  
登場!



※一番下が岩淵さん



ホールでは研究の傍ら日本語講師を務めた。フランスを離れる時、教え子たちと記念撮影。この中には、現在、熊大・岡大で学んでいる学生も

熊本大学大学院社会文化科学研究科に  
在籍していた私は、2006年から2010  
年にかけてフランスに留学し、ボルドー政治  
学院でフランスの地方分権制度やまちづ  
くりを研究しました。留学先にフランスを  
選んだのは、多くの日本人が憧れるこの国  
の魅力がどんなところにあるのかを探りた  
かったためです。フランスには約3万6千も  
のコミューン(日本でいう基礎自治体)があ  
り、それぞれがとても魅力的です。それを  
支えているのがデモクラシー(住民の話し  
合い)。住民や行政、議員が熟議し、そこ  
で出た意見を施策に取り入れようという意  
識がとても高く、その様子を目の当たりに  
できたことはとても良い経験でした。学ぶ  
ことが多く、1年間の留学の予定が、結局  
4年間滞在することになりました。

現在務めている岡山大学と縁ができたの  
も留学中。学都岡山に向けてボルドーを視  
察していた荒木勝先生(現・岡山大学副学長、  
地域総合研究センター長)との偶然の出会い  
がきっかけです。2011年11月のセンター  
開設と同時に助教に着任し、大学と地域の  
人々が自由に語り合う場をつくる「まちなか  
キャンパス」や、留学生のまちづくりを推進  
する文部科学省採択事業「留学生交流拠  
点整備事業」などに携わっています。念願ど  
おりまちづくりに関わり、その上留学の経験  
も大いに生かすことができ、まさに天職を得  
たと感じています。

熊大は海外に出ようとする学生を応援  
してくれる大学。今の私があるのは熊大の  
お陰だと思っています。留学を志す学生の  
皆さんには日本のことをしっかり勉強した  
上で、積極的に海外へ羽ばたいて行ってほし  
いと思います。



留学生たちと矢掛町大名行列(サムライトリップ)に参加。  
町長の歓迎を受け、歴史や文化のまちづくりに触れた

International  
exchange  
Report  
国際交流レポート  
平成25年6月~8月

6 / 11 熊本留学生交流推進会議総会を本学にて開催  
留学生受け入れの促進やグローバルな社会で活躍できる人材育成について意見交換を行いました。

19 日韓共同理工系学部留学生事業協議会(静岡)に参加

7 / 1 政策創造研究教育センター(政創研)、上海交通大学国際及び公共業務学院(中国)と部局間交流協定を締結  
詳細は19ページを参照ください。

8 駐日ルワンダ共和国大使が本学を訪問  
シャルル・ムリガン  
デ駐日ルワンダ共和国大使が谷口学長と懇談し、今後もアフリカからの留学生をより多く受け入れるとともに、ルワンダの大学との交流関係を構築していくことで合意しました。



30 熊本大学サマープログラム2013を実施(8月9日まで)  
海外交流協定校の学部学生に、日本への興味と理解を深める機会を提供することを目的にサマープログラムを実施しました。中国、韓国および台湾から合計31名の学生が参加しました。



8 / 4 HIGOPプログラム上海インターンシップを実施(11日まで)  
博士課程リーディングプログラムの

世界から熊本大学へそして世界へ

# 熊大で学んだことを生かし コスタリカの移植医療に貢献したい

カジャ・コスタリセンス・デル・ソシアル(コスタリカ)医師  
マヌエル・エンリケ・セレドン・ラミレスさん

2002年10月から2007年3月まで、  
国費留学生として熊本大学大学院医学教育部博士課程で  
学んだマヌエルさん。  
現在は、母国の医療機関で外科医として活躍しています。



2004年4月  
12号に  
登場!



コスタリカの病院で、肝移植手術に臨むマヌエルさん  
(手前、2010年撮影)

「最新の肝移植治療を学び、母国の医療に貢献したい」という思いで、熊本大学に留学しました。猪股裕紀洋教授の下で小児外科学と移植外科学を学び、特に肝移植とアミロイドーシス(※)について研究。2007年に帰国し、2カ所の病院勤務を経て、現在は国営の医療機関で外科医として働いています。昼の2時から夜10時までというシフトで、主に腫瘍の手術を受ける患者さんの体調管理や手術を担当しています。手術を待つ多くの患者さんをできるだけ早く治療してあげたいという思いもあり、一日のほとんどを手術室で過ごす毎日です。

熊大では、研究と臨床がうまくフィードバック合っている印象がありました。コスタリカでは患者のケアに重きを置いており、今後は研究面の充実が課題です。日本の医学の発展は、長年の研究の土台があったから

こそ。コスタリカでも、患者をケアすると同時に個々の病態を深く研究することで、さらなる進歩につながると確信しています。また、コスタリカでは高度な肝移植を執刀できる医師が少なく、患者の多くは国外で肝移植手術を受けています。私の夢は、肝移植のスペシャリストとして、困難な手術を執刀できるようになることです。

熊大で出会った人たちが熊本の街のことは、とても懐かしく思い出され、たくさんのことを学ばせていただいたと感謝しています。これからも熊大で学んだ技術と知識を生かし、コスタリカの医療の進歩に貢献したいと思っています。



2009年、当時勤務していた病院にて。  
患者について同僚とディスカッション中

※アミロイドーシス…「アミロイド」と呼ばれるタンパク質が全身のさまざまな臓器に沈着し、機能障害を起こす病気の総称

8 HIGOプログラムの一環として、8月4日から11日まで、上海インターンシップを実施しました。これは同プログラムにおける初めての海外インターンシップで、社会文化科学研究科の葉陵教授のコーディネートにより、上海の大学や医療機関、行政機関ならびに熊本上海事務所などを訪問し、各機関の職員、学生、熊大OBとの交流を精力的に行いました。



8 本学にて「日韓合同デザインキャンプ2013」を開催  
韓国の東亜大学校と共催する国際交流型のものづくり演習に、計72名の工学部の学生が集まりました。



8 平成25年度前期日本語研修コース修了式および短期留学コース閉講式を実施  
日本語研修コース研修生3名、短期留学コース留学生49名が修了しました。

28 AUN/SUN/SIERRAサマーセミナー(ハンガリー)に参加  
本学を含む国立六大学国際連携機構(SUN/SIERRA)がASEAN大学連合(AUN)と共催でタイ国マヒドン大学にて医療分野を対象としたサマーセミナーを実施しました。富澤一仁大学院生命科学研究科教授が最新研究の発表とHIGOプログラムを紹介を行いました。



## 理

# 自然は不思議に満ちている！ 有機化学でその謎を解明



西野 宏  
Hiroshi NISHINO

大学院自然科学研究科  
理学専攻化学講座 教授  
理学部化学科・昭和53年度卒／大学院  
理学研究科修士課程化学専攻・  
昭和55年度修了

昭和30年生まれ、熊本県熊本市出身。  
熊本県立済々黌高等学校卒業。

### 学生時代のひとこま



卒業研究を間近に控えた昭和54年  
2月、有機化学大実験室にて。

生き物を追って野山を駆け巡る  
一風変わった高校生

高校2年生までは勉強そっちのけ、週末は野山を駆け巡り生物の研究に没頭する“普通でない”高校生活を送っていました。自然が大好き、特に動物の生態に興味があり、生物の不思議さを解明し、そのような仕事に就きたいと理学部を目指すようになりました。

有機化学の研究にのめり込みつつ  
体力づくりにも励む、超多忙な日々

学部1年生の時、理学部における自然科学の考え方・方法論に大いに感銘を受け、特に有機化学の重要性に目覚め、ガツガツ勉強に励むようになりました。自然科学を幅広く捉えるため生物学や地学、哲学なども勉強し、体力づくりと称して一年中立山山を走り、夏は水泳、冬はスケート、春秋は野球・テニスと、超多忙な学生生活でした。今と同じく、実験室が24時間営業なのがうれしかったですね。

研究者となった今も

自然にはいつも驚嘆させられる

有機化学の専門家となった現在、主に有機ラジカルを使った複素環化合物の合成や反応機構の解明を行っており、特に、ユニークな骨格を持つ新奇化合物の合成や反応に興味があります。自然の中の化学物質の多さと生理作用も含めた機能性には驚かされるばかり。高校時代から始めた陸産貝類・淡水産貝類の研究も続けており、相変わらず多忙な毎日です。

## 教

# 機械を学んでいた高校生が 今は日本語学の研究者に



堀畑 正臣  
Masaomi HORIHATA

教育学部国語教育 教授  
教育学部中学校教員養成課程国語  
専攻・昭和52年度卒／文学研究科  
国語国文学専攻・昭和55年度修了

昭和31年生まれ、熊本県天草郡  
龍ヶ岳町(現・上天草市)出身。熊本  
県立熊本工業高等学校卒業。

### 学生時代のひとこま



2年生のときのワンゲル夏合宿。北アル  
プスの大パノラマをバックに。

造船技師を目指し工業高校に入るも  
国語教員へと進路変更

故郷の造船業を見て造船技師になろうと思ひ、工業高校の機械科に入りました。勉強しているうちに文学や歴史に触れ、本来自分が好きなのは人文系だと実感し、多感な中・高校生に伝えられる教員になろうと進路を変更することにしました。

憧れをかなえた学生生活  
学業・寮・部活動と全てが充実

希望した学部・学科に入学し、高校時代から憧れていた学生寮とワンゲル部にも入り、学業・寮生活・部活動と充実した生活を送りました。ワンゲル部では奥の細道をたどったり、北アルプスや屋久島など多くの山に登ったりしました。寮祭で辛島公園まで街頭ストームしたことも印象に残っています。

卒業後、巡り巡って母校に戻り  
一貫して日本語の研究を続ける

卒論に手応えを感じたため、大学院進学も考えましたが、貧乏なのでまずは就職！ということで、熊本県の小学校教員になりました。1年後に本学文学研究科修士課程に入り、修了後は高校や私立大学などで12年間教鞭をとった後、37歳で母校・熊本大学に助教として戻ってきました。伝統があり、自然豊かで、全国に通用するレベルと力量を持った本学で、日本語学の研究を続ける充実した毎日を送っています。

## 薬

# “熊薬”の伝統と精神を受け継ぎ 「人の役に立つ」研究を仲間と共に



三隅 将吾  
Shogo MISUMI

大学院生命科学研究部  
環境分子保健学分野 教授  
薬学部薬科学科・平成5年度卒

昭和46年生まれ、兵庫県石市出身。  
私立白陵高等学校卒業。

心の根底にあったのは  
「人の役に立ちたい」という気持ち

幼いころは、親から吹き込まれるまま「お医者さんになりたい」と言って周囲を喜ばせていたようです。高校生になってやはり「医者になりたい」と思っていたのですが、強い動機があったわけではありません。ただ、心の底に「人の役に立ちたい」という思いは持っていました。

配属されたのは希望と異なる研究室  
しかしそこで研究の魅力にとりつかれる

学部1～4年生では、薬学部バスケットボール部に所属し、仲間と共に汗を流し、技を磨き、感動を共有しました。4年生で希望とは違う研究室に配属になりましたが、その時指導を受けた教官から科学の真理を追求する面白さをたたき込まれ、研究の魅力にとりつかれました。

今までも、これからも、熊薬で  
仲間と共に歩み、社会貢献を目指す

今年9月、生命科学部環境分子保健学分野教授に着任しました。学部卒業後直ちに研究室スタッフとして採用され、これまで多くの方々に指導を受け、支えられ、今後も科学の真理を追求する面白さを熊薬で「共に学ぶ」仲間たちと共有できる機会に恵まれたことに心から感謝しています。クスノキの大樹繁る緑蔭の中で、次世代の創薬研究者や優れた薬剤師を養成する環境が整っている熊薬。その素晴らしい伝統にふさわしい、「熊薬らしい」社会貢献をすることが将来の夢です。

### 学生時代のひとこま



中央の黒いユニフォームが私。ホジ  
ンジョウはセンター。体は締まってました。

# 卒業先生

# ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る  
「卒業生ジャーナル」。  
今回は「熊大通信」50号を記念して  
本学を卒業した先生方をご紹介！  
本学で活躍する卒業“先生”方の  
“昔”と“今”に迫ります。

# 法

## 欲とモラルが交錯する複雑な世界に秩序をもたらす法は興味深い存在



遠山 聡  
Satoshi TOYAMA

法学部法学科 教授

法学部法律学科・平成5年度卒／大学院法学研究科修士課程法学専攻・平成7年度修了

昭和46年生まれ、熊本県葦北郡芦北町出身。熊本県立八代高等学校卒業。

夢は冬山でのペンション経営  
“起業”に憧れた高校時代

自分の努力や工夫がそのまま反映される、手の届く範囲で切り盛りできる規模の店や会社を経営したいと考えていました。料理や旅行、そしてウィンタースポーツが好きだったので、冬山でのペンション経営に憧れた時期もありました。

企業経営を学び法律の面白さを知る  
もっと学びたいと院へ進学

1～2年生のころは、精神的・経済的に自立したかったのと、接客や生のビジネスを学びたいという思いから、ビジネス雑誌を読みあさり、アルバイトに明け暮れる毎日でした。3年生になり企業経営に関係する法律を学ぶようになって、法律の面白さにはまり、もっと学びたいという気持ちから、大学院へと進学しました。

さまざまな思いが渦巻く世界に  
ルールを作るのは難しくとも興味深いこと

専門は商法で、大学院で企業組織や企業取引に関する法の研究を進める中で、保険法分野における紛争の多さ、その解決の難しさを知り、より深く研究したいと思うようになりました。今は、保険金支払いをめぐる裁判事例の分析や、保険業に対する監督規制の在り方などの研究を行っています。人間の欲とモラルが交錯する世界でのルール作りは難しいですが、とても興味深く感じています。

学生時代のひとこま



大学院の仲間とバーベキュー。中央が私です。

# 医

## 遺伝性神経難病に苦しむ患者さまに看護の立場から寄り添い続ける



柊中 智恵子  
Chieko KUKINAKA

大学院生命科学研究部環境社会医学部門看護学講座 准教授

医療技術短期大学看護学科・昭和59年度卒／法学部法学研究科法律専攻修士課程・平成10年度修了／広島大学大学院博士後期課程・在学中

昭和37年生まれ、熊本県宇城市出身。熊本県立第二高等学校卒業。

何度も父の命を救ってくれた  
熊大病院を見て医療の道へ

私の父は病気がちで、何度も熊大病院のICUに入院し、命を救われました。その様子を見ていて次第に医療に興味を持つようになり、高校生のころ、私も人の命に関わる仕事をしたいと、看護の道を志すことにしました。

患者さまとの触れ合いの中  
心豊かに過ごした1年間の病院実習

医療短大時代は、医学部バレエ部のマネージャーとギター部に所属し、勉強も部活もとても楽しかった思い出がありません。3年になると1年間熊大病院で実習があり、患者さまの看護をさせていただくため、友人たちと毎日遅くまで勉強していました。泣いたり笑ったり、いろんな感情の中で心豊かに過ごした実習期間でした。

難病に侵された患者さまの苦しみを  
癒やせる看護を目指して実践・研究

卒業後、大学病院に就職し、そこで治療のない遺伝性神経難病の患者さまに出会ったことを機に、遺伝医療・遺伝カウンセリング・遺伝看護という分野に取り組みようになりました。現在、看護教員をしながら熊大病院で非常勤看護師および認定遺伝カウンセラーとして活動しています。小・中学生の2人の子どもと過ごす時間をどう捻出するかに頭を悩ませつつも、遺伝性神経難病の看護を明らかにして全国に広げるという夢に向かって邁進中です。

学生時代のひとこま



熊大病院で実習中。“白衣の天使”に見えますか？

# 工

## “分子の気持ちになって” 人に優しい新素材を開発!



上村 忍  
Shinobu UEMURA

大学院自然科学研究科産業創造工学専攻物質生命化学講座 助教

工学部応用化学科・平成7年度卒／工学研究科応用化学専攻・平成9年度修了／自然科学研究科生産科学専攻・平成12年度修了

昭和48年生まれ、福岡県北九州市出身。私立明治学園高等学校卒業。

新しい物質を創り出せる化学で  
人の役に立つことができるなら

なにかしら、人の役に立つ技術などを身に付けたいと思っている高校生でした。化学は分子を組み合わせることで新しい物質を作り出すことができることから、化学で人の役に立てないかと考えていました。ただ、大学で研究者になるとは全く予想していませんでした。

研究はもちろんスポーツも楽しむ  
「文武両道」の楽しい学生生活

学部1～3年生のころはゴルフのサークルに所属し、サークルや学科の友人たちと旅行などを楽しんでいました。4年生から研究生生活が始まりましたが、何かとスポーツイベントに参加する研究室であったため、研究もさることながら、学部時代よりも皆でスポーツなどを楽しむ充実した期間を送りました。

ポイントはナノスケール  
分子を並べて、見て、新材料を創る

博士課程卒業後、海外(ドイツ2回)や企業など計4カ所の研究機関を経由した後、熊大に戻ってきました。その間、「分子を並べて、見る」というナノスケールで分子の集合体を作る研究を行っています。人に優しい材料を創るにはナノスケールの構造制御がポイントです。分子の気持ちになって新しい材料のきっかけとなる構造・現象を見出し、いきなと思っています。

学生時代のひとこま



旅行先で友人と。今とあまり変わりませんね。

# 文

## 遺跡・遺物に残る痕跡を追い 今日も現場で発掘に励む



小畑 弘己  
Hiroki OBATA

文学部歴史学科歴史資料学コース(考古学分野) 教授

法文学部史学考古学専攻・昭和56年度卒

昭和34年生まれ、長崎県島原市出身。長崎県立島原高等学校卒業。

考古学の道に入るきっかけは  
高校時代に出合った一冊の本

最初は絵描きになろうと思っていましたが、中学で美術教師に反対され、教師を目指すことに。ところが高校時代、藤森栄一氏の「かもしかみち」という考古学の本を読み、感動のあまり大学で考古学を学ぶことにしました。将来の職業など考えていませんでした。

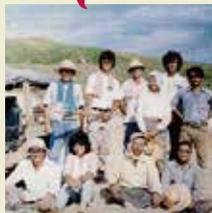
考古学、そして酒・・・  
好きなものにどっぷり使った学生時代

1～2年生のときは部活に明け暮れていましたが、やがて大学に来た目的を思い出し、研究室に通い始めました。夏休みなどには福岡に泊まりこみ、昼は現場で遺跡を掘り、夜は皆と酒を飲んで考古学の議論。考古学と酒三昧の学生生活を送りました。

卒業後さらに磨いた技術と知識  
世界を舞台に古代農耕史の謎を追う

卒業後は福岡市教育委員会の文化財専門職として働きました。忙しい日々でしたが、先輩方から考古学の技術や遺跡に関する知識を学び、毎日が新鮮でした。夜はロシア語の文献を読み、休暇が取れるとロシアや韓国へ遺物や遺跡を見学に。当時の経験はその後の基礎となっています。今は東北アジアの農耕史を明らかにすべく、土器に残された栽培植物やコクゾウムシの痕跡を探しています。

学生時代のひとこま



遺跡発掘の現場で。後列のサングラス姿が私です。

INFO REPORT

「文部科学省 情報ひろば」で創薬研究成果を展示中  
～文部科学省「子ども霞が関見学デー」に参加しました



現在、「文部科学省 情報ひろば」における展示を下記のとおり開催中です。

テーマ／薬を創り、薬を育て、生命(いのち)をまもる—熊本大学の「創薬研究」  
期 間／8月1日(木)～11月下旬(予定)

開館時間／月～金曜、10:00～18:00  
(入館は17:30まで。土・日曜、祝休館)  
会 場／文部科学省情報ひろば3階展示室  
(東京都千代田区霞ヶ関3-2-2 旧文部科学省)  
入場料／無料  
URL:<http://www.mext.go.jp/joho-hiroba/sp/index.htm>

また、文部科学省で8月7日(水)、8日(木)に実施された「子ども霞が関見学デー」にも協賛し、熊本大学の創薬に関する取り組みについて、パネルや透過ディスプレイにより紹介するとともに、水前寺菜やバジルの種などさまざまな材

料を使った実験を行いました。子どもたちは、スポイドや試験管を上手に使い、薬の世界を楽しげに体験していました。



(上)薬の世界を体験する子どもたち  
(左)8月8日には、くまモンが応援に来てくれました

REPORT 上海交通大学国際および公共業務学院(中国)と  
部局間交流協定を締結しました

7月1日(月)、中国の上海交通大学(上海市)に於いて、上海交通大学国際及び公共業務学院と熊本大学政策創造研究教育センター(以下、政創研)が、部局間交流協定を締結しました。同大学の国際及び公共業務学院では、比較政治系、公共行政系、公共経済および社会政策系等の学科を有し、これまでも政創研との学术交流が行われてきました。

本学からは、原田信志理事・副学長、政創研・上野眞也教授ほか関係者が同大学を訪問し、徐飛副学長と会談後、調印式に臨み、その後公共政策に関する交流会が実施されました。

上野教授と河村洋子准教授が、政創研の概要や活動を紹介。また、平成24年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラムに採択された本学の「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO」における両大学の今後の具体的な交流について意見交換が行われました。



徐飛上海交通大学副学長(左)と原田理事との記念品交換



調印式後の記念撮影

REPORT オープンキャンパス 今年も大盛況!

本荘・九品寺キャンパスで8月7日(水)、黒髪・大江キャンパスで8月10日(土)、オープンキャンパスを開催。2日間で延べ1万人を超える高校生が本学を訪れ、構内は夏の暑さに負けない熱気で包まれました。

教育学部棟前のアゴラには美術科学生製作の「風神・雷神」像が登場。迫力ある姿を携帯などで撮影する高校生が多く見られました(「風神・雷神」像は「熊大通信」39号Web特別版で紹介しています)。大教室での模擬授業や研究室での実験体験など、高校とは違う雰囲気に触れ、高校生たちは意義深い一日を過ごせた様子でした。



(上)「風神・雷神」像が置かれた教育学部のアゴラ  
(左)学生に教わりながら化学実験にチャレンジ  
(左下)ヒトのがん細胞を顕微鏡下で観察

**REPORT** 附属図書館中央館10月リニューアルオープン!  
主体的に学ぶ支援機能を強化

附属図書館中央館(黒髪キャンパス)は、全面改修を終え、学生の主体的な学修(アクティブ・ラーニング)を支援するための機能を強化して、10月1日にリニューアルオープンしました。

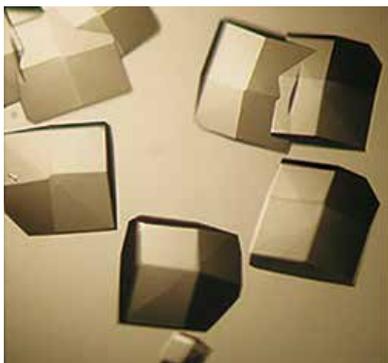
附属図書館中央館は、昭和48年に建築され、築後40年近く経過したため、耐震補強を行いました。併せて、学習、研究支援、市民・地域へのサービス機能を充実。“静”の空間として静かな学習の場を提供してきたこれまでの図書館の機能に加えて、蔵書やICT(情報通信技術)を柔軟に活用し、能動的な自学学習、討議や発表、ゼミ活動などを行える環境を整えることで、



“動”の空間(ラーニング・commons)としての役割も担います。

能動的な学習を支援し、知の創造を促す新たな学習空間を実現。学生の自学自習支援も強化していく

**INFO** 平成25年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へKAKENHI～」にプログラムが採択されました。



(独)日本学術振興会が公募するこの事業は、研究機関で行っている最先端の科研費の研究成果について、中・高校生を対象に、直に“見る・聞く・触れる”ことで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラムです。大学で行われている研究を体験してみませんか。

**【タンパク質の結晶を作り、その3次元構造をコンピューターグラフィックスで調べよう!】**  
日 時／11月23日(土・祝)9:30～17:30予定  
場 所／大江キャンパス  
(薬学部本館玄関前集合)  
対象・定員／高校生20名  
参加費／無料  
事前申込／11月8日(金)までに要申し込み

**【申込・問い合わせ】**  
大学院生命科学部  
Tel・Fax.096-371-4638(山縣)  
E-mail:yamagata@gpo.kumamoto-u.ac.jp

**INFO** 2014年世界結晶年記念公開講座「結晶学の始まりと今」

世界結晶年を記念した企画で、国際結晶連合などが協賛し、「結晶学の始まりと今」と題して、ノーベル賞受賞者や朝日賞受賞者など、世界的科学者の講演や体験実験を行います。

参加費は無料、申し込みは参加者氏名(引率教師・保護者のお名前もお書きください)、学校名、学年、連絡先電話番号を明記の上、メールでお申し込みください。

日 時／10月13日(日)～14日(月)  
場 所／工学部2号館2階223号室  
対 象／高校生、大学1・2年生および教員



**【申込・問い合わせ】**  
大学院自然科学研究科  
Tel.096-342-3415(吉朝)  
Fax.096-342-3411  
E-mail:yoshiasa@sci.kumamoto-u.ac.jp

**INFO** 女子中高生の理系進路選択支援プログラム「理系女子プロフェッショナルへの挑戦」



女子中・高生に理系の学問を身近なものとして興味を持ってもらい、理系を視野に入れたキャリアビジョンを抱き、“サイエンティストを目指す夢創り”を応援することを目的とした企画です。今回のプログラムでは3名の女性研究者に講演いた

だくほか、ミニシンポジウムも予定しております。教員・保護者も歓迎いたします。

日 時／11月10日(日)13:00～16:00  
(受付12:30～)  
場 所／工学部百周年記念館  
対 象／女子中学・高校生およびその保護者、教員  
参加費／無料  
事前申込／11月7日(木)までに要申し込み

**【申込・問い合わせ】**  
生命科学部保健学系事務室総務担当  
Tel.096-373-5452(受付月～金曜 9:00～17:00)  
URL: <http://www.girls.kumamoto-u.ac.jp/>

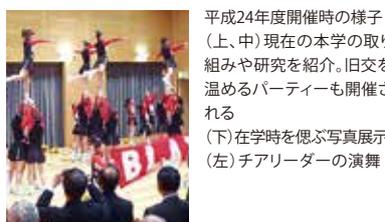
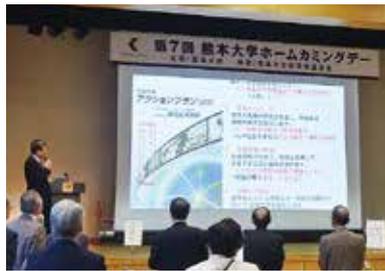
**INFO** 第8回ホームカミングデーを開催します

本学の卒業生と学生、教職員との相互交流を図ることを目的に開催します。大学の近況報告や学生によるアトラクションをはじめとする多彩な行事と交流の場を用意しています。

ご来学を機会にクラス会の企画など、交流の輪を広げてみませんか？

日 時／11月3日(日・祝)13:30～17:00  
場 所／工学部百周年記念館  
対 象／本学卒業生  
詳細は以下のURLよりご確認ください。  
[http://www.kumamoto-u.ac.jp/sotsugyousei/home\\_coming/20131103](http://www.kumamoto-u.ac.jp/sotsugyousei/home_coming/20131103)

**【問い合わせ】**  
運営基盤管理部総務ユニット  
Tel.096-342-3116 Fax.096-342-3110  
E-mail:kuma-hcd@jimu.kumamoto-u.ac.jp



平成24年度開催時の様子  
(上、中)現在の大学の取り組みや研究を紹介。旧交を温めるパーティーも開催される  
(下)在学時を偲ぶ写真展示  
(左)チアリーダーの演舞

**INFO** 平成25年度「熊本大学政創研 公共政策コンペ」を開催します

熊本や九州、自分たちの未来について日々考えている学生、自治体職員および一般市民が政策提言を行うフォーラムです。今年は「みんなで考えよう熊本、九州の未来」をテーマに、事前公募した方たちがコンペ形式で政策提言のプレゼンテーションを行います。参加費は無料、事前申込不要です。

日 時／11月2日(土)13:00～17:00  
場 所／工学部百周年記念館  
対 象／学生、自治体職員および一般市民

**【問い合わせ】**  
政策創造研究教育センター  
Tel.096-342-2044 (内線2044)  
E-mail:seisoken@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
URL:<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp>



**INFO** 平成25年度エイズ対策研究推進事業研究成果等普及啓発事業 エイズ予防財団主催 公開講座「エイズと悪性腫瘍」



HIV-1感染者と、一般に多い悪性腫瘍である悪性リンパ腫、肺がん、肝細胞がん、子宮頸がんを取り上げ、その予防と対策について専門家により平易に解説する講演会を開催します。この事業は、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業「HIV感染症に合併するリンパ腫発症危険因子の探索と治療法確立に向けた全国規模多施設共同研究の展開」(研究代表者 本学エイズ学研究センター・岡田誠治教授)の協力の下、(公財)エイズ予防財団主催、「日本エイズ学会」共催により、「第27回日本エイズ学会学術集会・総会公開講座」として実施するものです。

日 時／11月21日(木)16:30～18:30  
場 所／熊本市国際交流会館ホール  
対象・定員／一般、先着230名  
参加費／無料  
事前申込／不要

**【問い合わせ】**  
エイズ学研究センター岡田研究室  
Tel.096-373-6522 (遠藤)

## 熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.22(平成25年6月1日～平成25年8月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様からご寄附をいただき、平成25年8月31日現在、その寄附総額は約5億4425万円となっております。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成25年6月1日から平成25年8月31日までの間に入金を確認させていただきました個人165名、7法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

### 1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※( )内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

|         |           |            |           |                 |          |
|---------|-----------|------------|-----------|-----------------|----------|
| 【100万円】 | 熊杏会       |            |           |                 |          |
| 【20万円】  | 出盛 允啓(23) | 島村 英雄(24)  | 谷口 功(200) | 熊本大学工業会熊本支部(40) |          |
| 【10万円】  | 菊池 健(100) |            |           |                 |          |
| 【5万円】   | 谷口 正文     | 林田 紀久男(30) | 吹上 安伸     | 株式会社NIPPO 熊鋪会   | 有限会社ブライト |
| 【5万円未満】 | 相本 太刀夫    | 石島 和光      | 宇田 哲生     | 鮫島 靖浩           | 出口 美香    |

※お詫びと訂正

前号(Vol.49)において、寄附者のお名前に誤りがありました。

ご迷惑をおかけいたしましたこと深くお詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。

【10万円】長谷 義隆(35)様:重複記載

【10万円】古家 堯(40)様:未記載

### 2. お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[ ]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

|                |          |          |          |             |          |
|----------------|----------|----------|----------|-------------|----------|
| 伊方 敏勝[3]       | 石内 裕人    | 石原 敬子    | 井手 淳二[2] | 宇佐美 しおり[12] | 内尾 裕     |
| 江藤 賢治          | 大司 恭史    | 太田 貞之[3] | 大宮 伸二    | 緒方 雄輔[6]    | 小田原 英文   |
| 甲斐 正徳          | 勝屋 弘明    | 加茂野 久夫   | 工藤 智昭[2] | 後藤 正[2]     | 菰田 哲夫    |
| 坂本 優[2]        | 桜庭 公生    | 佐藤 八郎[3] | 佐藤 昌広    | 澁谷 義和       | 島内 保高[2] |
| 末永 栄喜          | 杉田 興一    | 千住 覚[4]  | 高橋 信治    | 武本 重毅[4]    | 千島 英一[3] |
| 寺田 敦子          | 徳田 雅人    | 長尾 麻衣子   | 永田 虔二[2] | 長畑 昌雄       | 野村 芳雄[5] |
| 橋口 富代子         | 馬場 秀夫[6] | 濱崎 義治    | 濱田 章治    | 林 守夫        | 早野 誠     |
| 春山 潔           | 福島 一雄[2] | 福山 智恵子   | 二塚 信[3]  | 松島 敏春[2]    | 馬屋原 務本   |
| 皆田 和行          | 養田 眞幸[6] | 宮内 久子    | 村端 秀映[2] | 柳田 哲夫       | 柳田 敏孝[5] |
| 山下 秀隆[2]       | 山城 重雄[3] | 山本 廣基[3] | 吉田 悦子    | 吉留 康弘       | 吉永 健[2]  |
| 渡邊 章           |          |          |          |             |          |
| 医療法人山田クリニック[4] | 熊本医学会    |          |          |             |          |

### 3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人92名、1法人・団体等

REPORT

### 「熊本大学同友会」の通常総会と懇親会を開催しました

「熊本大学同友会」は、森正臣熊本城北学園理事長、小野友道熊本保健科学大学長、赤星敦西日本システム建設相談役の3名を代表幹事に置き、熊本大学卒業生約130名で組織する経済交流団体です。

同会では、8月29日(木)、熊本ホテルキャッスルで通常総会と懇親会を開催しました。当日は、来賓の谷口功熊本大学長をはじめ、同会員約90名が出席。本年度事業計画・予算等を審

議・承認後、熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会システム実践研究教育センター長・山田文彦教授が「九州北部豪雨から1年を振り返って」と題して講演しました。その後、懇親会を開き、会員相互の親交を深めました。

同会は今後も、定期総会や大学と連携した旬なテーマの講演会を開催し、会員の交流を図っていきます。



(上)森正臣代表幹事  
(右上)谷口功熊本大学長  
(右)山田文彦教授講演



DISCOVER  
SOCIETY

限界へ挑戦! 医学部魂!

# 本九祭

本荘・九品寺キャンパス(医学部)学園祭

2013.11.2 [SAT]  
▶ 11.3 [SUN]

今年のテーマは「サプライズ!」

# 紫熊祭

黒髪キャンパス学園祭

2013.11.2 [SAT]  
▶ 11.4 [MON]

# 結集! 熊大 パワー

熊薬から輝きを!

# 蕃滋祭

大江キャンパス(薬学部)学園祭

2013.11.2 [SAT]  
▶ 11.3 [SUN]



Kumamoto University

国立大学法人

# 熊本大学

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1

TEL.096-344-2111(代)

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

■黒髪キャンパス ■本荘・九品寺キャンパス ■大江キャンパス